

静岡県企業局が、富士市で計画する「じさん工業用水道事業新ポンプ場建設工事」が本格着工した。国内で初めて工業用水にウオーターPPPの



レベル3・5（更新支援型）を採用する包括的民間委託事業の一環。9日に現地で安全祈願祭が開かれ、約50人が工事の無事完成を祈った。写真。受託者は大豊建設グループ

静岡県企業局

新ポンプ場建設に本格着工

50人が無事完成祈る



あいさつする
浅田土木本部長

プ。構成企業は大豊建設、ウオーターエージェンシー、建

の3人が鍬（くわ）入れ、浅田潤一大豊建設専務執行役員土木本部長が鍬（すき）入れを行った。神事後にあいさつに立った川田企業局長は「新たなポンプ場は、企業に水を安定して供給する非常に重要な施設と



鳥瞰パース

なる。持てる技術を存分に発揮して施工してほしい」と呼び掛けた。浅田土木本部長は「恵まれた資源を生かし、地域産業を支えてきた工業用水道を次代につなぐための工事となる。各社の強みを生かし

ながら、持続可能な事業運営に貢献する施設整備に取り組み」と決意を語った。概要は新ポンプ場、既設導水管（滝戸線）と既設岳南導水管2系との間を接続する連絡管の設計・建設、新ポンプ場、既存施設の運転・維持管理。1日当たりの計画水量は18万0800立方メートル。工期は2028年度まで。施工場所は伝法1328-1。



三好浩司統括所長（大豊建設）

の話。「じさん工業用水道事業の再生と最適化をキーワードに、技術とノウハウを生かしながら県とパートナーシップを築いて施工する」

